

辺境からセンターへ—設立 20 周年にあたり—

飯島淳一
東京工業大学・大学院
(2006 年～2008 年会長)

経営情報学会設立 20 周年、誠におめでとうございます。経営情報に関するわが国を代表する学会として、順調に発展していることを大変喜ばしく思います。20 年というのは「あっ」という間で、設立時に、「日本がつく日本経営情報学会なのか、つかない経営情報学会なのか」とか、“Management Information”なのか“Management Informatics”なのか、といった議論をしていたことを、昨日のことのように思い出します。

設立以来、編集、学会社会化、総務など、さまざまな仕事をさせていただき、また、2006 年 4 月から 2 年間、会長もさせていただきました。この 20 年間、学会活動を通じていろいろな経験させていただき、人間的にも成長できたのではないかと思います。また、おかげさまで、産官学にわたり、国内外の幅広い人脈を作ることができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、会長在任時に考えたことは、国内外、産官学、他の学協会との連携の促進でした。具体的には、ICIS や PACIS などへの参加の奨励、学会活動

のマスコミ等への露出、官公庁等への働きかけ、情報処理学会との合同シンポジウムの開催、賛助会員向けのシンポジウムの開催など、さまざまなことを試みました。残念ながら、思ったほど会員は増えませんでした。経営情報学会という学会がわが国にあり、それは、情報処理学会とは別のアプローチをしていて、ICT の社会経済的価値を高めることを考えるときには、外せない学会である、ということ世間に知っていただけるようになったのではないかと、自負しております。

最近、本務先での業務多忙のため、ほとんど学会活動に参加できず、誠に申し訳なく思っておりますが、今後ともますます発展していただけるよう、祈念しております。

最後に、ICIS や PACIS といった国際会議での発表だけでなく、世界のさまざまな研究者との研究交流を通じて、グローバルに活躍する人材を多数輩出し、「辺境」における経営情報の学会から、世界における経営情報学会として認知されるよう、会員諸兄のますますのご活躍をお願いいたします。